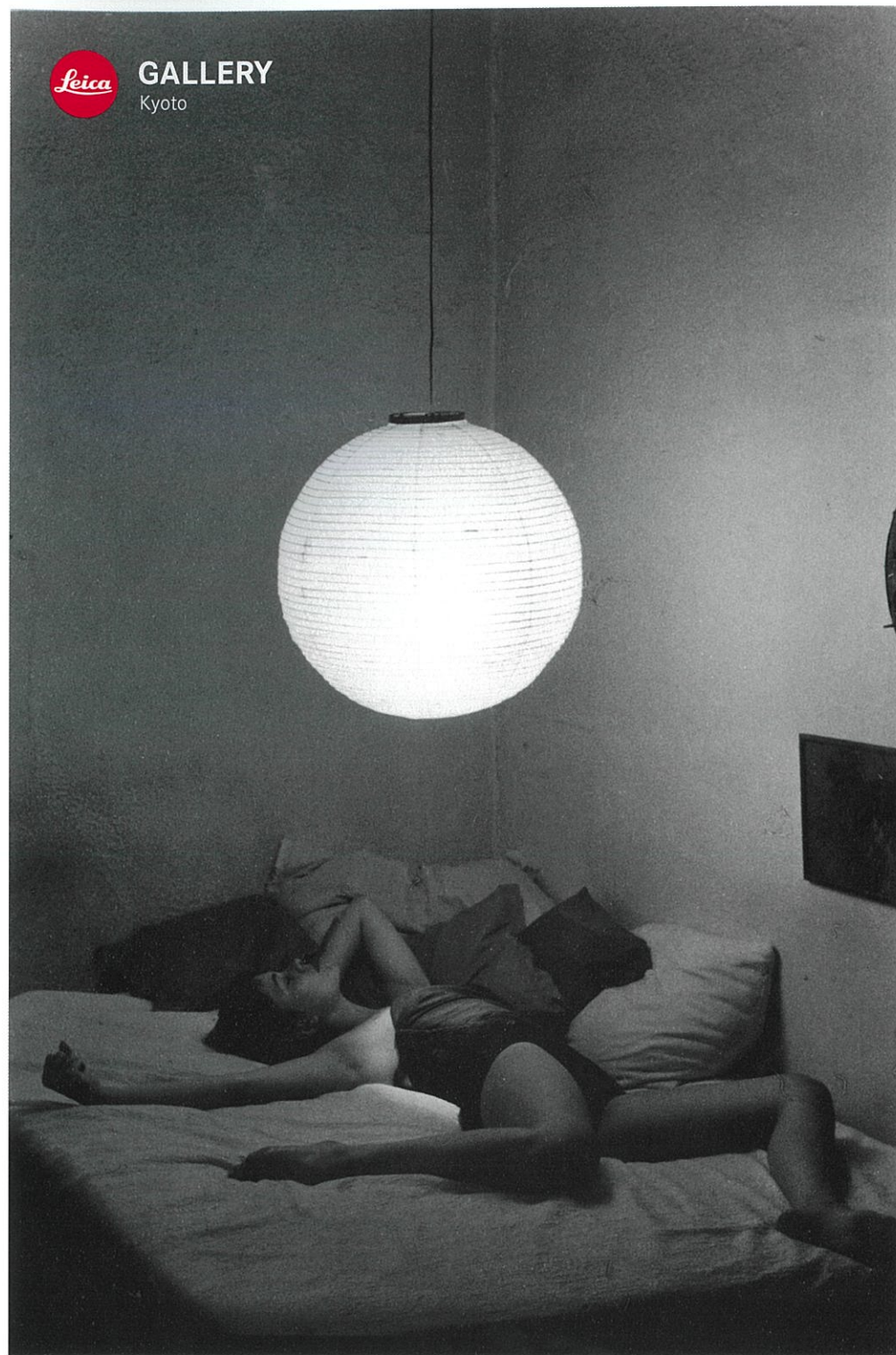


ライカギャラリー京都 | Leica Gallery Kyoto

ライカ京都店 2F | 京都市東山区祇園町南側570-120 | Tel. 075-532-0320

Leica Store Kyoto 2F | 570-120 Gionmachi Minamigawa Higashiyama-ku Kyoto | Tel. +81 (0) 75 532 0320 | [www.leica-camera.co.jp](http://www.leica-camera.co.jp)



GALLERY  
Kyoto



GALLERY

Kyoto

## Saul Leiter – Nude

2019.12.7 (Sat.) – 2020.3.5 (Thu.) 11:00 – 19:00

ライカギャラリー京都 (ライカ京都店2F) Leica Gallery Kyoto

月曜日定休 Closed on Mondays

入場無料 Admission free

### プロフィール

Saul Leiter (ソール・ライター、1923–2013)

1923年、ペンシルバニア州ピッツバーグに生まれる。父親はユダヤ教の聖職者ラビ。1946年、画家を志し、神学校を中退してニューヨークへ移住。1958年、ヘンリー・ウルフがアートディレクターに就任した『Harper's BAZAAR』誌でカメラマンとして仕事を始める。その後、80年代にかけて『Harper's BAZAAR』をはじめ多くの雑誌でファッション写真を撮影。1981年、ニューヨーク5番街にあった商業写真用の自分のスタジオを閉鎖。1993年、カラー写真制作のためイルフォードから資金提供を受ける。2006年、ドイツの出版社シュタイデルが初の写真集『Early Color』出版。2008年、パリのアンリ・カルティエ＝ブレッソン財団でヨーロッパ初の大規模回顧展開催。2012年、トーマス・リーチ監督によるドキュメンタリー映画「写真家ソール・ライター 急がない人生で見つけた13のこと (原題: In No Great Hurry: 13 Lessons in Life with Saul Leiter)」製作。2013年11月26日、ニューヨークにて死去。享年89歳。2015年、ソール・ライターの作品を管理する目的でソール・ライター財団創設。

※ライカギャラリー東京 (2019.12.6–2020.3.1) にて異なる作品で同時開催

2006年、ドイツの出版社シュタイデルから出版された『Early Color』により、「カラー写真のパイオニア」として、一躍世界の注目を浴びることになったソール・ライター。1950年代からファッション写真の第一線で活躍しながら、1980年代に商業写真から一切手を引き、忘却の彼方へと消え去ったソール・ライターに再び脚光が当たった時、彼はすでに80歳を過ぎていました。

2013年にライターがこの世を去った後、アトリエでもあった彼のアパートからは、膨大な未発表のヌード作品が発見されました。ほとんどの作品が1950年代を中心にライターのアパートで撮影されたモノクロームで、親しい女性たちを美しい光と影でとらえた作品には、彼がこよなく愛したピエール・ボナールやエドガー・ドガなど印象派の画家たちの影響も見ることができます。本展では、珠玉のヌード作品とともに、1970年代になってソール・ライター自身が自らこれらの写真を発見し、印画紙にガッシュなどで描画を施したミックストメディアの作品を展示します。